

# 新幹線プレス

2018年8月7日

No.391

発行者 杉澤秀則

編集者 教宣部

JR東海労新幹線地本

## 利便性より安全優先の対策を！

### 「のぞみ265号」殺傷事件に関する業務委員会開催

6月9日に発生した「のぞみ265号」殺傷事件についての申し入れに対し、8月6日業務委員会が開催され会社回答が示されました。

事件発生後に車内巡回を増やしていますが、新たに示された対策は「車内警備の強化」「防護装備の配備」「医療器具の充実」「社員教育の充実」等、いずれも発生を前提としたものでした。

JR東海は2015年に発生した「のぞみ225号」列車火災事故を受けて、車内防犯カメラの設置や耐火手袋・防護マスクの装備、警備会社による車内巡回などの対策を行ってきましたが、残念ながら今回の殺傷事件を防ぐことは出来ませんでした。このような事象を繰り返さないためにも、不審者を乗車前に食い止めるなど、いかにして発生させないのか・未然に防ぐのかということが重要であると強く主張しました。しかし、会社は「手荷物検査は鉄道利用の利便性を著しく損なうことになり、その実施は困難であると考えている」という消極的な回答でした。

### 発生リスクの低減・抑止効果のある事前対策の確立を！！

安全・安心・快適な輸送サービスの提供には、「利便性」より「安全」が優先されなければなりません。金属探知や抜き打ち検査など、多少の利便性を犠牲にしてでも乗客・乗務員の安全を第一に考えるべきです。そのために、発生リスクの低減・抑止効果のある事前対策を確立するよう強く訴えました。